

朝日中高生新聞 2015年7月12日号にフラインが取り上げられましたので紹介します。

**Going
my
way**

集えここに

体験者がつくる不登校生の居場所

不登校になった子たちの居場所をつくろうと、不登校を経験した女子高生らが挑んでいます。福岡市の末本晴香さん(高2)と松本理沙さん(高2)たちです。

主な活動は、不登校生の仲間づくりや会話に慣れるための「しゃべん会」を月に1、2回開くことです。福岡市西区の公民館で、不登校生とおかしをつまんでトランプをしたり、勉強をしたりしています。運動不足の解消もかねて、ごみひろいなどをすることもあります。

「売りはメンバー全員が不登校の経験者です」と笑顔で話す末本さん。「大人がやるより安心感を持つ人がいるはず」と松本さん。学校でつらかった経験をふまえ、参加者にやることをおしつけず、独りぼっちになる人が出ないように心がけています。

「Flire」というグループ名で、1月に活動を始めました。メンバーは10代から20代の6人。発案者の末本さんは中学生時代、部活の雰囲気になじめず、厳しい校則にも疑問を感じ、2年のときに不登校になりました。体調不良も重なりました。「家にずっといるのも親に申し訳ない」と別室登校するうちに、同じ境遇の人たちと話すようになりました。

「進路や勉強の不安、苦しかったことなど、

「しゃべん会」の参加者募集のチラシと名札を持つ末本晴香さん(左)と松本理沙さん=福岡市

普通に学校に行ったときには言えなかった話ができました。不登校生同士、話ができる居心地のいい場所をつくりたいと思いました」

不登校生の親が集まる会でチラシを配って参加者を募集。多いときで10人ほど集まります。要望があれば不登校生の家を訪ねて話をすることもあります。コミュニケーションが苦手だった中学生が少しずつ心を開き、この春には夢に向かって高校に進学したそうです。

末本さんと松本さんは3月、高校生のキャリア教育を応援するNPO法人「カタリバ」が東京で開いた「全国高校生マイプロジェクトアワード」で取り組みを発表し、35チームの中から優勝。9月には不登校生と先生を目指す大学生らとの交流を企画するなど、活動範囲を広げています。

松本さんは「私自身、話すことがあまり好きじゃなかったけど、活動を通じて性格が明るくなりました」。末本さんは「新しいつながりが生

しゃべん会の活動の様子。トランプなどのカードゲームを楽しむことが多いといいます=末本さん提供
まれるのはうれしい。自分にやるべきことがあるというのは楽しいです」。2人とも、若い世代を応援する仕事に興味を持ち始めています。

(猪野元健)

自分なりの道を模索しながら進む中高生を紹介しています。次は26日号で名古屋市の男子中学生を取り上げる予定です。